



令和3年度川俣町立福田小学校学校だより

しらすぎ Kids NO. 4 1

令和4年2月10日

文責:校長 神尾孝弘

福田小の思い出を缶に詰めて

2月8日(火曜日)。先月、子どもたちが製作した「思い出缶詰」に、思い出の品物を入れて蓋をする「封印の会」を行いました。思い出の写真、未来の自分に宛てた手紙、今自分が大事にしている小物など、小学校時代の様々な思い出を「思い出缶詰」の中に詰めました。最後に蓋をすると、子どもたちの思い出は10年後にタイムスリップです。

これから福田公民館で思い出缶詰を保管していただき、10年後に「開封の会」を行う予定です。子どもたちの10年後は、どんな世界になっているのでしょうか。そして、開封の日には、どんな思い出がよみがえってくるのでしょうか。その日まで、楽しみにしていきましょう。

今回のこの素敵な企画を実施していただいた福田公民館や福田地区青少年健全育成会の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。



【山木屋中とのオンライン交流学習】

2月9日(水曜日)。6年生が、山木屋中学校の生徒とオンラインで交流学習を行いました。両校の児童・生徒が総合的な学習の時間に取り組んでいる学習の成果を発表し合い、互いに意見を交流しました。両校とも、地域の皆さんの協力のもと、地域の現状や課題を学び、よりよい地域を作っていくための方策を探究してきました。

山木屋中は、東北復興宇宙ミッションで打ち上げた「山木屋宇宙そば」を題材に取り組んできた学習内容を発表しました。福田小は、振興公社の皆さんと一緒に進めている川俣シャモを使った防災食作りの取組を発表しました。



今回、オンラインで情報交換を行ったことで、自分たちだけでは見いだせなかった多様な考え方や課題解決の方法を学ぶことができました。そして、自分たちの学びが地域の活性化のために役立っているという感覚を共有することができました。

短い時間ではありましたが、両校の児童生徒のふるさとを大切に思う気持ちがあふれた素敵な時間となりました。

【オミクロン株による感染拡大を受けて】

全国的にオミクロン株による感染拡大が続いています。町内でも感染が確認されるなど、身近な所まで感染が広がってきている感じがします。どんなに気をつけていても、100%感染しないという保証はありません。福田小も例外ではなく、いつでも、誰でも感染する可能性があります。

ここで改めて、感染対策を徹底するとともに、感染した人への誹謗中傷につながる言動を行わないよう、みんなで共通認識をもちたいと思います。「感染した人だって、好きでなったわけではないよね」「せつないだろうから、早くよくなるといいね」などの温かい気持ちがあふれる福田地区であり続けましょう。シトラスリボンに込めた気持ちを忘れずに。

